科目名	医療と文 Literatu	学 re & Medicine	担当教員 (研究室番号)		ノ いづみ)連絡方法 アドレス)				
履修 年次	2年次 後期	科目 区分 教養・基	礎科目		選択 選択	単位数(時間)	2 (30)	授業 形態	講義	科目等 履修生 オープ・ンクラス	可可
科目目的	ンス・ナ スの代表 ら、登場 家の意図	文化共生社会におり イチンゲールの出身 作『音楽嗜好症』? 人物の感情・様々な や看護から的確に半 な視点から的確に半	身地であるイギ! を中心に、映画 f な症例・病状を を把握し、グロ-	リスの医療で とされた医療 考察・分析で −バル社会Ⅰ	文学作品(寮文学作品 する。また	脳神経科医で を読み、患者 、医療文学作	ノンフィク の視点、家 品における	ション・ 族・友人 キーワー	ライターの: 、の視点、医: -ド(フレー:	オリバー・ 療従事者の ズ)に注目	サック 視点か し、作
ディプロマ・ ポリシー (DP)	主要なDP	A 人々の生命・尊 度)	[厳・権利を尊重	にはするための幅広い教養と専門的知識を有している。 (知識・理解) では、看護専門識者としての倫理観に基づいて行動することができる。 (姿勢・態							
(Ы)	DP	DP C 多様な考え方や文化的背景を持つ人々の特徴に応じて、自らの看護活動の必要性や方法を説明するためのコミュニケーション能力を有している。(技能・表現)									
到達 目標	1. 医療文学の内容理解とともに、症例や病状、医療従事者の特徴を捉え、作品内容を様々な視点から考察・分析する技術を身に付け、グローバル社会において自らの考えや展望を説明することができる。 2. 医療用語(看護師や医療従事者が使用する言葉・フレーズ)と日常用語(言葉・フレーズ)や、章・パラグラフごとに内容を考察し、キーワード(フレーズ)や要点に言及しながら、現代における医療事情・問題・解決策・展望をグループ討議で発表することができる。 3. 各作品の内容や登場人物の背景・言動・感情に言及して、例を挙げて自らの意見を論理的に考察及び述べることができる。									に内容 で発表	
成績評価方 (基準)	成績評価方法 (基準) 毎回の授業課題提出(90%) レポー ※レポート課題については、ルー			-ブリックを	用いて評						
再試験の有 基準等	月試験の有無と・無:各回の授業課題、およびL 基準等					. 再試は不可	可能。				
教科書		授業で資料・ワー									
参考書等		授業中に適宜紹介									
学生の主体性を伸ば すための教育方法と 学生への期待 歴療文学読解のための医療専門用 在るべき姿・医療の在るべき形・ る。また、チーム基盤型学習(TE 取り入れ授業を進めるので、チー カッションや毎回の課題に取り組		問題点・解 BL: Team Ba -ムのメンバ Bむこと。	解決策・将 ased Learn バーとして	来展望を患者 ning)やSNA(責任を持って和	・家族及び (ソーシャル 漬極的に自り	友人・医 ・ネッ らの意見	療従事者の初 トワーキング を発言し、ク	見点から考察 ・アプロー ブループ・ラ	察す チ)を ディス		
備考		医療文学作品の誘 籍を読み、意見・ し)。詳細は1回	感想文を記述・	提出すると	:、エキス	トラ・ポイン	トとして成績	漬評価に	加算する(抗	是出枚数制队	
0		学習項目		1 - Mr - Mr.		学習内				主担当 教員	授業 方法
1 回	イントロダクション		授業の進め方、教科書、出欠席の扱い、成績評価に関する説明をする。チーム(グループ)を決め、チーム・ワーク(グループ・ディスカッション)の方法を説明する。「備考」欄に記載した課外学習についても説明する。イギリス出身の脳神経科医でノンフィクション・ライターのオリバー・サックスの生涯と作品について配布資料とともに説明し、視聴覚教材にて作家の声と話を実際に聴き、チーム・メンバーとディスカッションする。						ドライデン	講義演習	
2回	『音楽嗜好症』第5章		「耳に残るメロディー」について考察し、関連した教材を視聴 し、自らの意見を述べ、チーム・メンバーとディスカッションし て学んだ内容をワークシートに記述する。								
l	『音楽嗜好症』第7章					クシートに記	述する。			ドライデ ン	講義演習
3 回	『首架唱』	好症』第7章		「音楽のオ	才能」につ ヾ、チーム	クシートに記: いて考察し、 ・メンバーと	述する。 関連した教 ^友	材を視聴	し、自らの		演習
3 🛛		好症』第7章		「音楽のなきを述べた。 できません できまる できない できない はい こう でん だい こう いっと	ド能」について、 ドル・チーム アシートに は二つある けつである でである でである	クシートに記: いて考察し、 ・メンバーと 記述する。 のか」につい べ、チーム・ クシートに記:	述する。 関連した教ディスカッ で考察し、「 なンバーと・ 述する。	材を視聴 ションし 関連した ディスカ	し、自らので学んだ内数材を視聴ッションし	ン ドライデ	講義演習
	『音楽嗜			「 意容 で で で で で に で に で に で に で に で に で に で に で に で に で に で に で に で に で に で に で に で に で に に に に に に に に に に に に に	r能」につムフシートにファイン はこつある述り なまま できま できま できま できま できま できま できま できま できま で	クシートに記: いて考察し、 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	述する。 関連した教ディスカック で考察し、「 メンする。 した教材を	材を視聴し関連ィーに力に対し、	し、自らの て学んだ内 教材を視聴 ッションし 自らの意見	ン ドライデ ン ドライデ	演習講義調講義
4 回	『音楽嗜	好症』第11章		「意容「して「をワ」」の述ってはので、学生のでは、学生が、一次のでは、シースのでは、シースのでは、シースのでは、シースのでは、シースをできない。	ドボストン はいました かいまた かいまた かいまた かいまた かいまた かいま でんしい いい 記 病 、 でんしい かいまた 、 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	クシートに記: いて考察し、 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	述 関デ てメ述 しス しーと マメ述 しス しか しース おかい している 材シ 連ィス まかり 連ィス まかり 連ィス している はい しゃく	材ショ 連ィ して おいま して 材 で かん で	し、自らかの内 を 根を もんだ もらが もらが もらが もんだ は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	ン ドライデ ン ドライデ ン	演講演講演講演講演
4 回 5 回	『音楽嗜	好症』第11章		「意容「して 「をワ 「らだ」 ・ 音見をな、学 失述一 パの内 音 楽をワゼ自ん 語べク 一意容 楽 ・ シ キ見をと	トペラ はのち チーレモフ 感べれ、シニラ容 にート レモフ でんに ソベク リチーのよい いいに 病、シ にート あをり い・記 病、シ にーケー のムにる述一 てメ述 リチー つム	クい・記のベク 考ンすに ートい・シー オンオート 宗バる つムに てメント 察バる つムに 関デート しと マメ 連察 バース 変 がる い・記 奏 でんしょう かい・記 連ィータ 深がる いと	述 関デ てメ述 しス しー。関 リース マンオ もれ しんカ しんカ しんカ しんの はいる おかり 関デ したカ しん しゅ 関連した 教 の から しん 教 の から	材シ 関デ 視ン たカ 材シ 視ン しス して 材シ でいる して 材シ でいる いき まま しゃ はい かい しゃ かい しゃ	して学 教 か ッ 自んだ 内 して 見を 自んだ 視 し し、 で は し し し し し し し し し し し し し し し し し し	ン ドライデ ン ドライデ ン ドライデ ドライデ	演 講演 講演 講演 講演
4	『音楽嗜『音楽嗜	好症』第11章 好症』第16章 好症』第20章		「意容「して」をワ」らだ」、意容」をワープをでいる。 音見をな、学 失述一 パの内 音見を 認述一楽をワ ぜ自ん 語べり 一意容 楽をワ 知べり かぶ 一耳らだ 症、シ キ 見をと述 一 症、シ	ドベフ はの内 Fー レをフ 感ぐフ チート ドベフ はの内 Fー レをフ 感ぐフ ニート の見を つムに ンベク 」チー つムに にート あをワ い・記 病、シ にート い・記の スポー てメ述 」チー つムに てメ述	クい・記のベク 考ンす にートい・記 考ンシ てメ述か、シ 察がる つムに てメ述 察がに しー。 ・・記 考ンす しー・ といく 北 妻がる しといく 関デー 考ンす しー。 関デー のののに 関デー 察がる 、と 連ィ	述 関デ てメ述 しス しー。関デ しス の しカ と す たカ 、と 連ィ たカ 、と 連ィ たカ 以 で して 教ッ 連ィ たカ 材シ 連ィ たカ 材シ で コーン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	材シ 関デ 視ン たカ 材シ 視ンをョ 連ィ 聴し 教ッ をョ 聴しれ して 材シ 視ン して聴し たカ 、学 をョ 聴し 、学	し、 は、 は、 は、 では、 では、 では、 では、 では、	ン ドライデ ン ドライデ ン ドライデ ドライデ	演 講演 講演 講演 講演 講演

10回	劇作家・詩人ウイリアム・シェークスピア の作品	シェークスピアの作品における看護・病態・医療従事者・医療文化について考察し、関連した教材を視聴し、自らの意見を述べ、 チーム・メンバーとディスカッションして学んだ内容をワークシートに記述する。	ドライデ ン	講義演習
11回	小説家チャールズ・ディケンズの作品	ディケンズの作品における看護・病態・医療従事者・医療文化について考察し、関連した教材を視聴し、自らの意見を述べ、チーム・メンバーとディスカッションして学んだ内容をワークシートに記述する。	ドライデ ン	講義演習
12回	作家ジョージ・オーウェルの作品	オーウェルの作品における看護・病態・医療従事者・医療文化について考察し、関連した教材を視聴し、自らの意見を述べ、チーム・メンバーとディスカッションして学んだ内容をワークシートに記述する。	ドライデ ン	講義演習
13回	作家アーサー・コナン・ドイルの作品	ドイルの作品における看護・病態・医療従事者・医療文化について考察し、関連した教材を視聴し、自らの意見を述べ、チーム・メンバーとディスカッションして学んだ内容をワークシートに記述する。	ドライデ ン	講義演習
14回	小説家カズオ・イシグロの作品	イシグロの作品における看護・病態・医療従事者・医療文化について考察し、関連した教材を視聴し、自らの意見を述べ、チーム・メンバーとディスカッションして学んだ内容をワークシートに記述する。	ドライデ ン	講演習
15回	まとめ:医療と文学の関係について フローレンス・ナイチンゲールの愛読書と 作家・作品への言及・引用文	授業で学習した内容も含めて、看護師・医療従事者として読んで おきたい医療文学作家・作品リストを配布し説明する。レポート 課題の説明をする。	ドライデ ン/学外 協力者	講義演習

- 1回目事前課題: 医療文学についてその時点で知っていることをメモしておく。 1回目事後課題: 配布資料に目を通し、授業内容の確認をしておく。 2~8回目事前課題: 前週の授業で学んだ内容を思い出しながら教科書にメモをしてまとめておく。 2~8回目事後課題: 配布資料から学んだことやチーム・メンバーとグループで要約した内容を思い出し、自らの意見や考えをまとめてお

実務経験を活かした教育の取組